

相原地区資源ごみ処理施設連絡会（第1回）

議事要録

- 日時 2013年10月19日（土）18時～19時30分
- 場所 都営武蔵岡団地 第二集会所
- 出席 委員：平山会長、井上副会長、青木委員、江田委員
参考人：井川光夫氏（相原町大戸町会長）
- 欠席 なし
- 事務局
：内山環境資源部長、田後循環型施設建設担当部長
循環型施設整備課：水島課長、高田担当係長、柳川主事、深澤担当係長、
久保主事
環境政策課：古木次長、新海主査
資源循環課：山田課長
3R推進課：窪倉担当課長
コンサルタント：株式会社日建設計
- 傍聴者 4名
- 配布資料 1：町田市ごみの資源化施設地区連絡会設置要綱
2：3地区連絡会の位置付け
3：資源循環型施設整備計画の概要
4：選定の流れ
5：これまでの相原地区における説明会でのご意見・ご要望
6：説明会会議要旨
7：今後の進め方（スケジュール等）

1. 委嘱式

委嘱式、開会のあいさつ、委員紹介、会長・副会長の選出を行った。

会長には都営武蔵岡自治会の平山富士雄委員、副会長に中相原町会の井上正行委員が選出された。その後、正副会長から挨拶を頂いた。また、事務局の紹介を行った。

2. 協議事項

各議題に入る前に田後循環型施設建設担当部長より、下記説明があった。

- ・ **田後担当部長** 大戸地区に対しては今後丁寧に説明を行い、ご意見を伺う場を設けることとしているので、大戸地区の具体的な話は、本日の第1回会議では避けたいと考えている。現状の相原地区の問題、また、相原地区に資源ごみ処理施設ができることによって、相原地区全体にどのような影響があるのかを中心に議論したい。

○議題1 地区連絡会について

資料1、2について事務局より説明した。

(以下、質疑)

- ・ **青木委員** 意見結果の公表はホームページでとのことだが、ホームページは万能ではないし、常に見ているとも限らない。別の広報の仕方について考えはあるか。
- ・ **内山部長** 仰る通りであり、ホームページは見ない方もいるので、その他の手段も使ってお知らせしていきたい。

○議題2 循環型施設整備事業について

資料3、4について事務局より説明した。

(以下、質疑)

- ・ **井上副会長** 土壌調査もだが、この土地が本当に建設に適するのか、地盤調査も行うのか。
- ・ **事務局** 建物を建てる際にはボーリング調査を行う。
- ・ **江田委員** 2020年度までにごみ量を40%削減ということだが、現状、40%の削減を達成できている自治体はあるのか。また、40%という数値が高いのか低いのかもよく分からない。
- ・ **事務局** 40%削減はかなり高い数値であるが、今後のごみの減量を鑑みて、この程度の数値までは持っていくという方向性で市は考えている。
- ・ **江田委員** バイオガス化を行うなども合わせて、現状の技術で実現可能な数値なのか。
- ・ **事務局** 先ほど提示したトン数を実施していくというところで、市民の方の協力は頂きながら、この数値に近づけていくということで考えている。
- ・ **田後担当部長** プラスチックは燃やさないで全量資源化することで、プラスチックごみの排出量6700トン減という数値を出しているが、市民の協力を頂いて

資源化するので、資源化協力率という想定の数値があり、これを50%でみている。資源化施設を作る際には、施設規模の決定のために、資源化協力率というものを設定するが、多くの自治体は50%でみている。いかにごみの資源化を進めるか、家庭、事業者双方に市として働きかけをするなどしなければこの4割削減は非常に高い目標であることは分かっている。目標を掲げてやっている自治体はあるが実現は難しい状況ではある。ただ、町田市としては、そのような目標を掲げて行動していくことで考えている。

- **青木委員** 生ごみの発生抑制が5000トン減となっており、この割合が高いが、これは技術的な問題というよりも個人の意識の問題だと思う。これはかなり努力しないと難しいように感じる。
- **田後担当部長** 食べかす、生ごみの8割は水分なので、しっかり水を切るだけでもずいぶん違う。重さを減らすことでごみの処理量は減る。バイオガス化を行うことで、脱水して乾燥した残渣を燃やすが、それでも乾かすエネルギーと焼却するエネルギーがいる。このためにはやはり大きなエネルギーが必要となるので、環境負荷の低減のためには水を切っていただくなどして焼却量を減らすことが重要。43万人の市民の方のそれぞれの毎日のちょっとした協力で削減はできると考えている。
- **青木委員** 協力は理解しているが、もう既にかかなりの市民が実践していると思う。生ごみの水は現在でも十分切っているのに、それをさらに切るには各家庭に圧縮機のようなものがないと、これ以上は難しいのではないかと。
- **事務局** 町内会や自治会に出向いて、250名の方に昨年度、具体的なごみの減量方法について説明している。家庭用の生ごみ処理機、また大型生ごみ処理機についても説明している。集合住宅では、この大型生ごみ処理機を、家庭向けには家庭用生ごみ処理機を、補助金制度も説明して、減量化についてご説明している。
- **青木委員** 2011年度からの基本計画検討委員会の委員の選定はどのように行われたのか。
- **事務局** 市民代表という形で町内会・自治会連合会長から推薦いただいた方と、公募の3名、学識経験者、事業者の方で構成されており、計19名である。
- **青木委員** その時点で、町内会、連合町会の方に話があって委員を推薦しているということか。
- **事務局** その通りで、相原からは小山地区の方に委員として出席いただいた。
- **青木委員** 相原地区に資源化施設を作る話になっているのに相原地区の人は委員に入っていなかったのか。
- **事務局** 当初から建設候補地が相原エリアと決まっていたわけではなく、相原については、自治会連合会長に選出頂いて、小山地区から選出頂いた。
- **田後担当部長** 基本計画検討委員会を立ち上げる際には、まだ候補地は白紙の状態であり、この段階で各地区から選出する委員の方を決めて委員会を進めてきた。1次から3次と候補地選定を進めていく中で相原は候補になったが、そのなかで、相原の委員は小山地区から選出された方であるという状態であった。候補地になった地区について委員を変更するという進め方はできないため、委員会の終了ま

でこのような形となった。候補地となった他の地区に対しても同じ形で進めさせていただいた。

○議題3 これまでに頂いている意見の紹介

資料5、6について事務局より説明した。

(以下、質疑)

- ・ **江田委員** 意見としては、ガードレールなど、道に関する要望が多いように思うが、資源ごみ処理施設へはどこから進入するのか。
- ・ **田後担当部長** 進入路の話や施設のレイアウトは次回以降お話しさせて頂きたい。町田街道の安全性の確保が必要であることは資源化施設の建設に特化したことではなく、現状の町田街道沿いの安全確保ということで、庁内各部含めて現在検討を進めている。
- ・ **井上委員** 有害ごみ保管場所という表現は、誤解を与えるので、乾電池、蛍光管等保管場所など表現を注意した方がいい。
- ・ **青木委員** 様々な意見要望が出ているが、これら建設に当たっての対応は、いつどのように行うのか。
- ・ **田後担当部長** 地区連絡会へ各地区の意見を報告する。大戸地区から意見はあると思うので、自治会町内会からも意見は集約する。新たに出てくる意見についても冒頭に説明した組織体で検討して方向性を出していく。スケジュールは、資料7の予定で進めており、来年3月で一旦とりまとめて、市としてすぐにでも検討すべき事項については地区連絡会の意見として出す予定。さらに詰めるべき・は次年度以降進めていく。地区連絡会の位置付けとしては、稼働開始まででなく、稼働開始後もきちんとした運営ができていくかなどを継続して議論していく場として考えている。

○議題4 今後のスケジュールについて

資料7について事務局より説明した。また資料7の地区連絡会は2013年から2015年の2年間で終わっているように見えるが、任期が2年という意味で、地区連絡会は、2020年の稼働開始後も続いていくことが補足で説明された。

(以下、質疑)

- ・ **江田委員** 委員は人が替わってもよいのか、それとも継続の方がよいのか。
- ・ **田後担当部長** 任期中に替わる理由があればそれも考えられるし、任期が終われば次の方に引き継いでもらうことでも構わない。またずっと継続頂いても構わない。
- ・ **平山会長** 11月中旬から12月上旬の勉強会、見学会というのは、今の段階ではどういうふうを考えているか。

- **事務局** 昭島市の資源ごみ処理施設が最近稼働を開始したので、そちらの見学を予定している。日程は、操業日時の関係上、水曜日を除く平日で調整させてほしい。
- **田後担当部長** 資源ごみ処理施設がどのような施設なのか理解を深めて頂くために、見学会には大戸町会の方にも是非参加していただきたいと考えている。
- **平山会長** ワークショップは住民が参加しやすいよう、日曜日で開催願いたい。

●閉会の挨拶

午後7時30分 閉会